

## 平成19年度 百合丘子ども文化センターの管理運営に対する評価について

### 1 指定管理者

(1) 指定管理者	財団法人かわさき市民活動センター
(2) 指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
(3) 業務の範囲	百合丘子ども文化センターの管理運営に関すること 百合丘小学校・西生田小学校わくわくプラザの管理運営に関すること

### 2 管理運営（事業執行）に対する評価

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導
(1) 管理業務の実施状況		
施設の運営に関する職員体制に関すること	①人的能力の充実を図るため職員の児童厚生員資格取得を進めると共に、新規採用職員は業務に関する資格取得者から選考しました。②本部の職員体制については管理係長1名、区運営担当主査を3名配置して各館との連携強化を図りました。	職員の業務に関する資格の取得を進めたこと、また本部職員の充実によりかわさき市民活動センターが管理運営している他の子ども文化センターとの連携を図ったことは評価できる。職員の研修については、スケールメリットを生かし、大規模な研修を実施し、また、指定管理施設の各区、施設単位での研修も実施することにより職員のスキルアップを図っていたことは評価できる。今後も子ども文化センター及びわくわくプラザの職員配置が適切に行われるよう努めること。
施設の管理運営に対するニーズ等の把握に関すること	子ども文化センターでは、毎月の子ども会議や必要時に開催される運営協議会で、子どもや利用者からの意見要望の集約に努めた。行事ごとに子どもたちから感想を聞くようにした。わくわくプラザにおいても子ども会議、保護者会を開いて意見収集を行った。子ども文化センター、わくわくプラザに意見箱を設置し様々なニーズの把握を行った。	継続的に利用者や地域住民からの意見・要望等を聞きニーズの把握に努めていたことは評価できる。意見箱の活用等により積極的にニーズの把握に努めていたことは評価できる。
サービスの提供に関すること	様々な世代のニーズに対応したサービス（交流の場、行事、情報提供）を行った。具体的には、子育て中の母親が集える行事、小中高生の居場所作り、様々な体験ができる行事、市民活動の場の提供、そして子育て情報や地域の催し物の情報提供を行った。	運営協議会や子ども会議等を実施しサービスの提供を行っていた。また、ホームページの内容をより充実させていたことは評価できる。障害児については、障害児相談員を雇用し、必要に応じ職員の相談を行い障害児の対応を充実させていたことは評価できる。

事業の実施に関する こと	運営協議会やこども会議を中心に、お祭り（さんま祭り、もちつき、大掃除）など多くの事業を開いた。子育て支援センターと連携を図り、毎月1回午前中に子育て中の保護者と乳幼児向けの行事を開いた。また定期的な行事（よみきかせ、映画会）を開き、固定の利用者の増加を図った。	運営協議会等との連携により地域のニーズに合った行事を実施したこと、また、子育て支援センターと協力した行事を行ったことは評価できる。今後も、ボランティアの活用を努めること。
個人情報取扱に関する こと	入館調査表の記入に関して、目的を伝えて、理解してもらっている。氏名、住所などが書いてある書類はカギがかかる場所に保管している。個人情報が掲載されている不要な書類は、必ずシュレッダーにかけて破棄している。	個人情報の取扱については、概ね問題なく処理されている。
施設の安全管理に関する こと	防犯、不審者、侵入対策の研修を実施した。講師から、事務室の階段側の窓には、午後6時～9時までカーテンを取り付け、閉室時には開けて帰るように、また玄関に鈴を取りつけて、来館者を知らせる合図にするなどの指示をいただき、実施しました。百合丘交番に定期的にパトロールをお願いし、実施してもらいました。また、食品衛生の安全管理の研修を行い、職員の意識向上を図った。	毎日の清掃や始業時の点検を行い、安全性に努めている。また、百合丘小学校わくわくプラザにセンサーライトを設置し、より安全性を高めていたことは評価できる。
(2) 利用状況		
①こども文化センター	延べ利用者数 27,826人 延べ団体利用数 6,424団体 （主な行事等） よみきかせ&てあそび もちつき  （特色のある行事） かかし作り	地域の状況に合わせた特色ある行事の実施している。また、地域との連携を図り行事を実施していることは評価できる。行事の実施に当たっては、具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。
②わくわくプラザ	1 百合丘小学校わくわくプラザ 登録者数 236人 延べ利用者数 16,117人 （主な行事等） プラバン 百合小わくわくまつり  （特色のある行事） マジックショー  2 西生田小学校わくわくプラザ 登録者数 473人 延べ利用者数 18,424人 （主な行事等） 室内集団ゲーム なんでもマラソン  （特色のある行事） わくわくクイズレボリューション	行事については、順調に実施されている。利用状況は具体的な数値目標等を設定し客観的な達成状況が分かるように心がけること。

評価項目	平成19年度管理運営の状況	評価及び指導																														
(3) 収支状況																																
① 収支状況	<p style="text-align: right;">(単位：円)</p> <table> <tr> <td>収入</td> <td>指定管理料</td> <td>49,510,918</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td>人件費</td> <td>38,986,821</td> </tr> <tr> <td></td> <td>管理費</td> <td>2,856,573</td> </tr> <tr> <td></td> <td>事務経費</td> <td>1,937,847</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他経費</td> <td>1,436,042</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青少年事業資産取得支出</td> <td>909,090</td> </tr> <tr> <td></td> <td>減価償却引当資産取得支出</td> <td>40,492</td> </tr> <tr> <td></td> <td>第1回精算に伴う返納金</td> <td>636,363</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計</td> <td>46,803,228</td> </tr> <tr> <td></td> <td>差引</td> <td>2,707,690</td> </tr> </table>	収入	指定管理料	49,510,918	支出	人件費	38,986,821		管理費	2,856,573		事務経費	1,937,847		その他経費	1,436,042		青少年事業資産取得支出	909,090		減価償却引当資産取得支出	40,492		第1回精算に伴う返納金	636,363		合計	46,803,228		差引	2,707,690	事業実施後指定管理料の残額を戻入しており指定管理料の範囲内で事業の実施を行っている。今後は収支のバランスを考慮しつつ、事業をより充実させるため適切な経費の執行を図ること。
収入	指定管理料	49,510,918																														
支出	人件費	38,986,821																														
	管理費	2,856,573																														
	事務経費	1,937,847																														
	その他経費	1,436,042																														
	青少年事業資産取得支出	909,090																														
	減価償却引当資産取得支出	40,492																														
	第1回精算に伴う返納金	636,363																														
	合計	46,803,228																														
	差引	2,707,690																														

### 3 管理運営（事業執行）に対する全体的な評価

指定管理以前から委託事業者としてこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わっていた経験を生かし、また、全市58施設の内55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、施設ごとに偏りの無いサービスの提供を行っており、区ごとのこども文化センター合同行事の実施や全市規模の行事の実施を行っていた。行事の実施についても施設ごとに特色ある行事を実施していることは評価できる。また、各施設を統括する本部職員を配置することにより、他のこども文化センターと連携を図り管理運営を行っていたことは評価できる。

55施設の指定管理者としてのスケールメリットを生かし、安定した経営を行っていたことは評価できる。

### 4 来年度の管理運営（事業執行）に対する指導事項等

次年度も引き続き55施設の指定管理者として安定した経営、他施設と連携した行事等スケールメリットを生かした管理運営を実施すること。事業の実施に当たっては運営協議会を始め地域と連携し、より一層地域の状況に合わせた特色ある行事の実施等を行うこと、また目標利用者数を設定する等具体的な数値目標を設定し客観的に事業の達成状況が分かるようにすること。